

1 はじめに

今年度は、コロナウイルス感染症の拡大で、活動が実施できないことや制限されることが多かった。特に、全校児童が集まる活動や、他学年との交流をする活動が持てないことが残念であった。その中で、今年度実施できた活動を報告する。

2 実践内容

(1) あいさつ運動（運営委員会の取り組み）

コロナ禍で、学校でも児童同士の距離を取ったり、大きな声を出すことが制限されたりと新しい生活様式に児童も慣れてきた。登校中の児童の様子を見ると、あいさつが聞こえず、下を向いて歩く姿が多い。そのような状況に気付いた運営委員で、あいさつ運動を計画・運営することになった。

ア あいさつ運動グッズ

のぼりや、花のアーチなどのあいさつグッズを使用することであいさつへの意識が高まった。きちんとあいさつができた児童には、運営委員の児童による評価で、「GOOD カード」を提示し、モチベーションの維持に努めた。

イ 金小ゆるキャラ「山海仙人」

運営委員の児童が、「山海仙人」の格好をして、あいさつ運動を行った。低学年の児童から人気で、よくあいさつが返ってきた。



(2) コロナ予防への呼びかけ（保健委員会の取り組み）

ア 「ニューノーマル戦隊コロナたおしたいんジャー」の活動

全校児童に対して、コロナウイルスへの正しい予防法を広めるための呼びかけを行いたいという提案があり、保健委員会の児童で結成した。役割やカラー（赤：手洗い、青：マスク、緑：換気、黄：免疫力、紫：ソーシャルディスタンス、桃：思いやり）は、感染症予防には、何が大切かを話し合いながら、委員会児童が自分たちで決めた。第2学期終業式後、委員会からのお知らせとして、全校児童に正しい予防法を説明した。



イ 新型コロナウイルス感染症予防に関するクイズの出題

呼びかけだけでなく、クイズを使って児童に興味関心をもってほしいと、委員会児童が問題を考えた。中休みにクイズを配付しながら、呼びかけを行った。戻ってきたクイズには、委員会児童より一言コメントを記入し、返却した。

3 成果と課題

- ・コロナ禍でも、児童が自分たちにできる活動を考えて、実施することができた。
- ・あいさつ運動は期間を決めての実施だったが、成果が表れてきたため、児童から継続していきたいとの声があり、主体的に組んでいる。
- ・保健委員が主体的に活動することで、児童から児童への感染症予防の学びが広がった。
- ・活動が制限されている中でも、実施可能な活動や方法を精選できるとよいと考えた。来年度へ向けて、検討していきたい。